

Japan Automobile Service Promotion Association

# jaspa news

[日整連ニュース] No.505

マイカーてんけんキャンペーン  
各地で多彩なイベントを開催

12

december  
2006



社団法人 日本自動車整備振興会連合会

## 「高校生ものづくりコンテスト全国大会」が開催

第6回高校生ものづくりコンテスト全国大会（主催：全国工業高等学校長協会、後援：文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省等）が、11月12日（日）、埼玉県・鴻巣市の関東工業自動車大学校で開催された。

近年、若者の製造業離れが進み、ものづくりの技術・技能の継承等が危ぶまれていることから、わが国の持続的発展を維持するには、産業を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者を確保し、育成することが重要となっている。

そこで、全国工業高等学校長協会では、ものづくりの社会的機運を高めるため、各工業高校で取り組んでいるものづくりの学習成果をもとに、全国各地の工業高校生の代表が一堂に会して、技術と技能を競い合おうと平成13年から開催したもので、多くの学校関係者や学生、一般来場者が応援に駆けつけ、「技能の甲子園」「高校生の技能五輪」と高い評価を得ている。

今回で第6回を迎えた同大会は、過去5回の大会を発展させ、自動車整備部門を関東工業自動車大学校で、旋盤作業、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、橋梁模型製作部門をものづくり大学（埼玉県行田市）に分けて行われた。

開会式で挨拶に立った小林聡全国工業高等学校長協会理事長は、「現在、日本の経済状況は製造業を中心に上向き傾向あると言われて久しい状況にあり、その大きな原動力は日本が今まで培ってきたものづくり産業が根底にある。大量生産は安い人件費の国に負けるが、少量高額製品、付加価値を高めた製品づくりは今後とも日本の生きていくべき道であり、存在価値をそこに見出すものと確信している。そのためのもの

づくり教育を今後どう推進していくのか非常に重要なものがある。今大会は6回目を迎えるが、大会の社会的な認知度は一段と高まっており、また、来年度には日本が将来歩むべき道として再確認する意味において実施される技能オリンピックが静岡県で開催され、今年はその前哨戦といっても過言でない大会であり、同コンテストがさらに盛り上がることこそ、日本の将来に光を射し、工業高校の意義が高まる」と挨拶した。

関東工業自動車大学校での開催となった自動車整備部門は、地区予選大会を勝ち抜いた11名によって競われ、学科（三級ガソリン・シャシ登録・検定問題程度）、測定作業、定期点検・車両取り扱い作業、エンジン故障探求作業の4課題に挑戦、これらの完成度（指示通りの作業・完成）や技術度（工具・作業機器類・測定機器の取り扱い方等）、作業態度（安全作業への配慮、整理整頓）などが審査の対象となった。120分にわたる熱戦の結果、小松原高等学校自動車学科（埼玉県）3年の中村信君が見事優勝を飾り、2位に広島市立広島工業高等学校自動車科3年の清水龍君、3位に愛知県立小牧工業高等学校自動車科3年の岡正樹君が入賞を果たした。



定期点検・車両取り扱い作業に取り組む選手生徒